

学校と
家庭と
地域を



つなぐ



三島市立山田中学校

10月8日は二四節気の寒露、朝露が冷ややかに感じられるころだそうです。台風18号が来る前は暑かったり涼しかったりで、はっきりしない日が続きましたが、この後は涼しくなりそうです。

1 山田小フェスティバルに参加しました。



10月5日(日)に開催された山田小フェスティバルに、本校の生徒が150人参加しました。部活動対抗リレーを2レース行い、工夫したリレーと応援を行いました。会場は、その様子を見て、大変に沸きました。生徒も、地域のイベントに楽しんで参加していました。

地域の活動に中学生が加わると、とても頼もしく感じられます。将来の地域を支える人材であることを改めて感じました。参加態度も実に良かったと思います。

2 いじめ防止等の基本方針を策定しました。

いじめ防止対策推進法に基づき、本校におけるいじめ防止等のための対策に関する基本的な方針を定めました。近々、全文をブログに掲載いたしました。

本校では、いじめがなく、全ての生徒が安心して学習やその他の活動に取り組むことができるように、保護者や関係者の皆様と連携を図りながら、いじめ防止と早期発見に努めたいと考えています。

私たちのいじめ問題に対する基本的な認識は、次の通りです。

- 1 いじめはどの生徒にも、どの学校にも起こり得るものである。
- 2 いじめは人権侵害であり、人として決して許される行為ではない。
- 3 いじめは大人には気づきにくく、判断しにくい形で行われる。
- 4 いじめはいじめられる側にも問題があるという見方は間違っている。
- 5 いじめはその行為の様態により犯罪行為として取り扱う。
- 6 いじめは教職員の生徒観や指導の在り方が問われる問題である。
- 7 いじめは学校、家庭、地域社会などすべての関係者がそれぞれの役割を果たし一体となって取り組むべき問題である。



このような認識で、いじめ問題に取り組むたいと考えています。



3 「追いかけて連絡」の設定確認をお願いします。

10月6日(月)、台風18号が静岡県に上陸の可能性が強くなったため、学校は休校となりました。本年度は、すでにお知らせしてありますが、フェアキャストのB契約で「追いかけて連絡」(事前に登録されている複数の連絡先に対して、連絡配信をします。)が可能となりました。それを利用して配信したところ、約130人の御家庭で手続きが完了しておらず、配信されない御家庭がありました。そのため、すぐに「通常連絡」で再送いたしました。

配信をメールで設定されていらっしゃる方で、タイトルが「台風18号の接近に伴う休校のお知らせ」と「台風18号の接近に伴う休校のお知らせ(再送)」の2通のメールが配信されている方は、「追いかけて連絡」の手続きが完了している方です。タイトルに「台風18号の接近に伴う休校のお知らせ(再送)」というメールだけが配信された方は、手続きが完了していません。

※別紙の「子ども安全連絡網について」を参照の上、確認をしてください。

4 青峰祭文化の部が終わりました。

9月27日(土)、青峰祭文化の部が終わりました。多くの保護者の方々や地域の方々に足を運んでいただき、ありがとうございました。

本年度は、青峰祭体育の部も文化の部も1日開催で行われました。これは、学校経営目標である「多くの達成感を積み重ね、自尊感情を高められる生徒の育成」の具現化のため、青峰祭も企画の段階から生徒会役員を中心に「生徒が達成感を感じられる」ように代表に任せ、不足する部分はアドバイスし、担当教師が寄り添うように支援しながら



ただきました。夏休み前から、こつこつと各学級が努力してきた成果が発揮できたと思います。

ら1つ1つ創り上げていきました。

本年度は、午前中は山田中の体育館2Fでオープニングセレモニー、有志によるダンス発表、英語スピーチコンテスト出場者の発表、中学生の主張出場者の発表等が行われました。午後は、市の文化会館に移動して合唱コンクールが行われました。コンクールの結果の詳細は、学校ブログに掲載いたしました。その中で、審査委員長の高橋先生が「山田中の合唱は非常にレベルが高く、これだけハーモニーを注意しながら合唱コンクールができる学校は少ない」というコメントをい

5 第2回「はごろも『夢』講演会」が行われました。



10月9日(木)、第2回はごろも「夢」講演会が行われました。これは、公益団体法人はごろも教育研究財団の講演を実施できました。今回の講師は、明治大学 文学部教授 心理学者、カウンセラーの諸富祥彦先生にお願いいたしました。

諸富先生は数多くの著書を書き、自称「時代の精神(ニヒリズム)と闘うカウンセラー」「現場教師の作戦参謀」と言っています。講師紹介の中でも紹介しましたが、諸富祥彦の名言集の中に「自分のダメな部分を認めることができると、自分を変化させることができます。1番怖いことは自覚がないことです。」「誰からも好かれたい、みんなから愛されたい、それを失いたくないよという考え方を『失愛恐怖』と言います。日本人はこの考え方が強く、好きでもない友達と無理に付き合い続けることで心をすり減らしてしまう人もいます。」生徒の『悩み』に答える、素晴らしい講演をしていただきました。